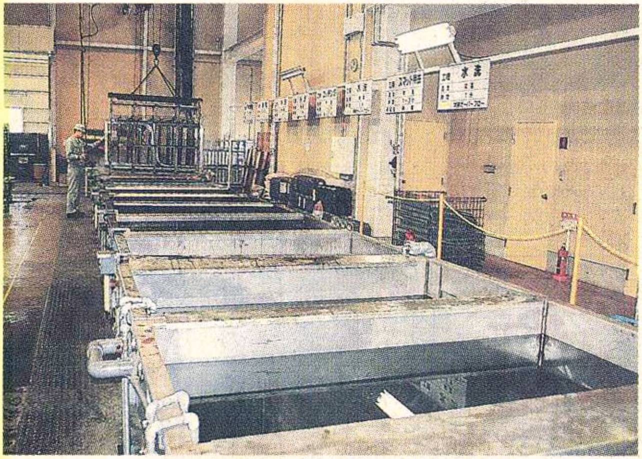
クロムフリー型に改良

協伸静塗

欧州の環境基準に対応

金属製品表面塗装加工の協伸静塗（高岡市吉久、加藤一博社長）は、化成皮膜処理の浸漬（しんせき）ラインをクロムフリー対応型に改良した。環境対応を急ぐ顧客メーカーのニーズに応えるためで、二月から本格稼働させる。



クロムフリー対応型に改良した協伸静塗の化成皮膜処理ライン

アルミ部品などには、さびを防ぐためクロムなどを使った化成被膜処理が施される。二〇〇六年（平成十八年）七月から、EU（欧州連合）各国で施行されるRoHS指令では、カドミや六価クロムなどが有害物質に指定され、部品への使用が規制されるため、国内の各メーカーはRoHS対応部品の調達を急いでいる。

同社は一昨年に新工場を建設した際、規制強化の動きをにらんで、浸漬ラインにクロムフリー対応用の処理槽を設置。従来のクロムリン酸系化成処理に劣らない品質、コストを確保する技術的なめどが立ったことから、ラインの改良に踏み切った。本格稼働を機に新規受注の拡大を図っていく。今回の改良で、全ラインがクロムフリー化されることになった。